

学校西道路(敷島・竜王線)の拡張に関わって

敷島・竜王線の拡張工事のことは以前にもお話ししました。平成24年には、幅16メートルの歩道も完備した素晴らしい道路が開通します。(平成21年からの4年計画です)今、学校西信号機の場所では毎日2人の保護者の方(1人は信号機の場所、もう1人は少し西の交差点の場所)が旗振りをして下さっています。それに隔週で甲斐市防災安全課から専門交通指導員が来てくださいます。徒歩で学校に来る子どもたちの多くが通る場所ですが、交通指導をしていると、車が猛スピードで近くを走り抜け、思わず「ひやり」とすることがあります。この場所には次のような問題点があります。

- 狭い道路にもかかわらず、相当のスピードで車が走っている。
- 押しボタン信号の青が短く、子どもたちが大勢の時は一度では渡りきれない。
- 道路に歩道が無いので、渡るのを待つ場所、渡ってからの場所が無い。
- 横断旗を入れる「安全人形」の手の高さが子どもたちの顔の高さにあり、逆に危険なことがある。

新道路は、両側に広い歩道のある安全性に優れた道路になります。そして、前述した問題点も解消します。周辺地域の交通事情は一変し、北小周辺は益々住みやすい地域になることでしょう。その日が待ち遠しいです。

また、保護者の皆さん方にも心配していただいた本校の駐車場のことですが、関係者のご尽力により次のようになりました。(まだ決定ではありませんが、そのような方向で市当局が考えて下さる、という約束をいただきました。)

- 最低でも、道路分として削られる駐車場の面積については代替え地を確保したい。
- 今の駐車場の様子(運動会の時など満杯状態)から、出来れば今まで以上の広さを確保したい。

大変嬉しい話です。校長として関係各位の方々のご尽力に心より感謝いたします。

学校西信号機付近



完成した道路(学校の駐車場からの見た様子)



児童数が増える傾向です

10月30日(金)に来年入学児童の就学時検診が行われました。来年の児童数は何名になると思いますか。本校の入学児童数は、この数年40人前後でした。40名を少し越えると2クラスになり、少し足りないと1クラスになります。ところが、来年度の入学生は久しぶりに50人の大台を上回りそうです。長期減少傾向に歯止めがかかり、これからは児童数が増えていくのかな、そうだとしたら嬉しいことだ、と思います。そして以前の北小のように、全ての学年が2クラスになれば、そんな願いを持っています。新しい道路の開通で北小周辺は益々便利になり、家も増え児童数も増えるかもしれません。児童数が増える、本当に嬉しいことです。(来年度以降のことは未確認ですが)

意欲を持続させるには

学習や仕事に取り組む時、根気強く取り組み学びや習いごとが確実に定着する子がいる反面、直ぐに飽きてしまい、なかなか学びが身に付かない子もいます。このような違いは個人差もありますが、別の要素もあります。今回紹介する話は人が作業(学習等)を持続するのに何が必要か、を調べる実験からの引用です。

A, B 2つのグループ(各グループ数名ずつ)に作業をさせます。作業内容はCの場所にある品物を両手で持ち(相当大きな品物)Dの場所に運ぶという単純な作業です。この時、AグループとBグループに少し変化をつけます。Bのグループには品物が置いてある場所Cを覆い隠します。このことで、運ばなければならない品物の数量を見えなくします。この両者で実験を続けると不思議なことが起こります。

Aグループは比較的順調に作業を続けます。それに対しBグループは、しばらくすると疲れ、飽きてしまい、作業を続けるのが困難になってしまいます。(勿論グループ内での個人差はありますが。)このような違いがどうして生じたのでしょうか。それは、次のような理由からだそうです。

○人は作業(学習)をする時、その作業がどの程度で終了するか、ある程度見当(目安)をつけて作業をする。(無意識のうちに計算しているのだそうです)

○やり遂げる見当がつかない作業は、人を不安にさせ、やる気を失わせる。

○作業がどの程度進行したか、見える(確認できる)と人はやる気(張り合い)を持つ。

今、品物の数を覆い隠してしまうことで、Bグループはどれだけの品物を運べばよいのか分からなくなりました。そのため、この作業を進める上での、力の入れ具合、配分等が分からず、作業能率が低下し、疲労感がにじみ出るようになります。

それに対し、Aグループは、運ばなければならない品物が山積みされていても全容が見えます。ですから、作業の進行につれ仕事ははかどっていることが分かります。そのため「やる気」が出て、「根気」が続きます。

実はこのことは、他の事柄にも言えるのでしょう。私たち教師が学校で子どもたちに教える時、何かを指示する時、また、ご家庭で保護者の皆さんがお子さんに指示したり、話をする時、次のようなことを気をつけると良いのでしょう。

○終わりの見えない作業、を指示しない。

○どこまですれば良いのか、を具体的に示す。

○達成までの明確な道筋、方法を示す。

○達成感を積ませることで意欲を持続させる。

ですから漢字テストや計算テストなども初めから百題テストでなく、3題テスト、5題テストなどの小テストで満点を取らせ、達成感を持たせてから取り組ませると良いのでしょう。

また、問題集にしても、内容豊かな分厚いものに取り組むより、簡単に出来そうな薄いものを完全に成し遂げることで「やり終えた、成し遂げた」という達成感を持たせることが大切なのでしょう。

子どもたちに何かを伝えるにしても、「このくらい(沢山)話せば、その内の1つや2つは覚えているだろう。」と多くの指示を出すのではなく、これはという内容を1つか2つに絞り、それを完全に守らせ、実行させることのほうが効果的なのでしょう。

今回は「意欲の持続」という視点から指導方法や子どもとの接し方について考えてみました。しかし、考えてみればこのことは、保護者の皆様よりもむしろ私自身が心に留めることかな、そんなことを思いました。